

## 第4回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム 議事録

開会 18:30

(司会：高橋氏)

それでは、ただいまから第4回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム(横須賀・三浦地域フォーラム)を開催いたします。申し遅れましたが、私、本日の司会進行を務めます、横須賀で環境関係の活動をやっております高橋と申します。よろしくお願いいたします。

県民会議の委員という形でこれに参画しておりますが、三浦半島地区で私1人しかおりませんので、横須賀市以外から「ずしし環境会議」の田倉さんにご協力いただきまして、本フォーラムの企画を担当いたしました。

(田倉氏)

皆さん、こんばんは。「ずしし環境会議」の田倉と申します。今晚のフォーラムが、楽しく、そして有意義なフォーラムになることを期待しております。よろしくお願いいたします。ありがとうございました(拍手)。

(高橋氏)

それでは、初めに主催者挨拶といたしまして、水源環境保全・再生かながわ県民会議座長を務めております、金澤史男からご挨拶申し上げます。

金澤先生、よろしくお願いいたします。

(金澤座長)

皆さん、こんばんは。ご紹介いただきました水源環境保全・再生かながわ県民会議の座長を務めさせていただいております横浜国立大学の金澤でございます。

ご存じのように、昨年度から神奈川県は、水源環境税、一般に言われていますけれどもそれを導入をいたしました。現在、水源環境ないし森林の保全のために、新たな税を起こしてその保全再生に取り組もうと、そういう県は全国47都道府県の過半25を超えるまでに広がっております。そういう中で、神奈川県らしい取り組み、これが県民会議の仕組みだろうというふうに思っています。

県民会議は30名の委員で構成されていますけれども、10名が学識経験者、10名が関係団体の方々、それから10名が公募委員の方々であります。特に公募委員の方々が5つの地域から代表という形で参加をいただいて、この県民フォーラム等の企画に活躍をいただいております。この県民会議は、この水源環境保全のために、県民の皆さんから徴収したこの税金、普通の税金以上に納めていただいているこの税金が、真に水源環境の保全・再生のために使われているのかどうか、これをチェックしていこう、そのための組織であります。専門家が集まってモニタリング、施策の調査、どういうふうにしたらいいのかというのをこの間研究し、また実践もしてまいりました。それだけではなくて、公募委員を中心に事業のあり方について県民の目線からそれを評価していく、そういう活動もやっております。

この県民フォーラムは、そういう活動の一環として各地域の方々のこの水源環境保全・再生に対するその地域独自のご意見をぜひ寄せていただきたい、こういう目的で開いているものであります。既に3回、昨年度行いました。4回目がこの横須賀・三浦の地域であります。最後は5回目が7月に横浜・川崎地域ということで予定されておりますけれども、

この県民フォーラムで寄せられたご意見は、県民会議として取りまとめて、そして知事さんにお伝えをしていこうと考えています。現に、昨年度3回やった県民フォーラムの意見を、昨日取りまとめて松沢知事のほうにお伝えをいたしました。それについてはまたホームページ等でご覧になっていただければと思います。今年度最初のこの横須賀・三浦の地域での県民フォーラムの意見も、取りまとめて知事のほうに伝えていく意向と考えております。そういう意義深い会ですので、ぜひ皆さん方の積極的なご参加で、いろいろな意見が寄せられることを期待したいと思います。

開催に当たりまして、先ほど司会の方からありましたように、「ずしし環境会議」の田倉さんには大変お世話になりました。また、本日市長の代理として杉本副市長にご参加いただいております。ありがとうございます。また、蒲谷横須賀市長を初めとして、横須賀市の環境の方々にも大変お世話になりました。改めて御礼申し上げたいと思います。それから、県民会議の委員等も今日はコーディネーター、パネリストとして積極的に参加させていただきたいと思いますが、桂川・相模川流域協議会の宮野さん、それからNPO法人環境ファミリー葉山理事長の安藤さんには、パネリストをお引き受けいただきましてありがとうございます。お世話になった方々に改めて御礼申し上げて、代表者としての私のあいさつにかえさせていただきます。ありがとうございました（拍手）。

（高橋氏）

金澤座長、ありがとうございました。

続きまして、今回のフォーラムが横須賀・三浦で行われるということで、地元を代表いたしまして横須賀市からご挨拶をいただきたいと思っております。本日蒲谷市長所用のため、市長の代理といたしまして、杉本俊一副市長にご挨拶をお願いいたします。

それでは、副市長よろしく申し上げます。

（杉本横須賀市副市長）

皆さん、こんばんは。ご紹介いただきました横須賀市副市長の杉本でございます。

本来ならばこのフォーラムの開催地ということで、市長がごあいさつを申し上げるところでございますが、今、司会者からお話がありましたように、どうしても外せない公務が入っておりますので出席できませんことをお許しをいただきまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は第4回の県民フォーラムということで、ここヴェルクよこすかでのように盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げたいと思っております。また、このフォーラムの開催準備に当たりました金澤様を初め、関係者の皆様のご努力に対しまして、心から敬意を表する次第でございます。

今日は水にかかわるフォーラムでございますけれども、この水は市民生活において欠かすことのできない大変貴重な資源であり、また財産でもあります。この資源を私たちは、孫たちやまた未来の子供たちに、安全でそして維持保全していく、そういう役目があるわけでございます。それは私たちにとっては当然の使命であり、また責務であると思っております。

横須賀はご存じのように、水道水の水源となる大きな川また湖などは持ち合わせていないわけでございます。唯一の水源は走水にある湧き水でございますが、この水量は全使用量の0.5%に過ぎず、とても水源とは言えない状況でございます。そういった中、本市の水源として、遠くは相模川また酒匂川にその水源を依存せざるを得なく、また将来にわたって安定給水を行っていくためには、平成13年度に完成をいたしました宮ヶ瀬ダム建設にも積極的に参加し、水量の確保に努めてきたところでございます。

しかし現在、この水源となるダムや河川の流域は、今、山林は荒廃が進み、また河川の

流域では生活排水の対策の遅れ等々により水質の悪化を招き、また水量の確保も非常に厳しい状況になってきているわけでございます。とりわけ水道、林業にかかわる者にとりましては、大変深刻な問題となってきたわけでございます。そこで私たちは、将来にわたってこの良質な水を安定的に確保維持していくためには、今、私たちに何ができるのか、そしてまた何をすべきか、本当にここで真剣に向き合って議論をして、そして早期に行動に移すことが求められていると、私は思っております。

今日は第4回目のフォーラム、この後その事業の取り組みやまた活動報告、さらにはパネルディスカッション等も行われるようでありますが、どうか皆様におかれましては、このフォーラムにおいて活発な意見交換がなされ、そしてこの皆様にとってフォーラムが大変実りの多いフォーラムとなりますよう心からご期待を申し上げて、簡単でございますけれども、開催地としてのあいさつとさせていただきます。

本日はご苦労さまでございます。ありがとうございました（拍手）。

（高橋氏）

どうも、杉本副市長、ありがとうございました。

副市長から専門的なことを、詳しくご説明いただきました。時間があれば、本当は杉本副市長にここで基調講演をやっていただければ一番いいんじゃないかなと思うぐらいでございます。前上下水道局長でいらっしゃいます。

それでは、続きまして、本水源環境保全・再生施策に関する事業の概要につきまして、担当の神奈川県政策部水源環境保全担当課長であります星崎雅司からご説明申し上げます。

ちょっと説明のためにパワーポイントを使いますので、会場をちょっと準備させていただきます。よろしくお願ひします。

それでは、準備もできましたようですので、星崎課長、よろしくお願ひします。

（星崎水源環境保全担当課長）

水源環境保全担当課長の星崎です。どうぞよろしくお願ひします。

皆様への配布資料の中に、「かながわの水源環境保全・再生をめざして」という冊子と、1枚の裏表の資料で「水源環境保全・再生の取組み（平成20年度/平成19年度補正予算）」と、「県民会議の仕組み」という資料をお配りしています。こちらの画面で説明いたしますが、お配りしたパンフレットを見ていただいても結構です。よろしくお願ひします。

まず、「なぜ、今、水源環境保全・再生が必要なのか」ということでございます。神奈川県では、相模ダムの建設をはじめとしまして、早くから水源開発に努めてきました。昭和54年には、三保ダムが、平成13年には宮ヶ瀬ダムが完成し、県民の皆様が使う水の量は、概ね十分となりました。この横須賀三浦地域の水道のほとんどが相模川・酒匂川から供給されております。

ところが、ダムの水は、上流の森林や河川などの自然環境によって育まれるものです。それら森林の状況です。こちらが人工林の荒廃の写真です。せっかく植林して育ててきたものも、手入れ不足により、こういう状況になってしまいますと、水も地下にしみこんでいきませんし、土砂も流されてしまいます。平成15年度に県が行った人工林の調査結果によりますと、県内の水源地域の森林の内、私有林の人工林が29パーセントあり、うち、このように荒廃が進んでいる森林が60%もありました。では、自然林はどうなのか。これはブナの立ち枯れの様子です。山頂部分のブナがこういう格好で、立ち枯れがひどい状況です。こちらは、登山道の状況です。非常にたくさんの方が入られて、こういう状況になっています。荒廃がこのように進んでいます。

次に、水質の状況です。この表の一番左側にある「BOD」、生物化学的酸素要求量と、

ちょっと難しい名前ですが、この数値が高いほど水が汚れていることを表します。相模川、酒匂川はいずれも環境基準値の2.0を下回っており、現況では、その目標を達成しているといえます。一方で、さきほど見ていただいた森林の状況が進みますと、保水力の低下や土砂の流出、それによる水質悪化などが大変心配されます。また、一部支流では、まだ汚れている状況も見受けられます。

一つ飛んで、湖の状況ですが、全窒素、全リンという、生物の栄養の元となる物質の濃度が高いため、夏の気候状況によっては、写真のようなアオコが発生し、臭いがする状況です。

このことから、平成12年以来、水源環境保全・再生施策や財源のあり方について、県民の皆様や市町村などと意見交換を重ね、さらに県議会での議論を踏まえて、20年間の取組方向を示す「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」とその「実行5か年計画」という、2つのものを平成17年11月に策定しました。この実行5か年計画では、新たに取り組むべき12の特別対策事業を位置付け、その事業を実施するための財源として、納税者1人当たり平均、年間約950円の個人県民税の超過課税をご負担いただき、年間38億円の事業費としています。

そういうことで、昨年4月から、取り組みが始まり、また同時に課税も始まりました。始まった12の特別対策事業について、ご説明します。

まず、森林の保全・再生事業です。1の水源の森林づくり事業の推進から5の地域水源林整備の支援までの事業は、手入れ不足などで荒廃した森の公的管理を強めて、森林を整備・管理していく事業です。

次に、6の河川の保全・再生事業です。これは河川が本来もっている自然な浄化機能を高めていく工事などを行うものです。

さらに、7の地下水の保全・再生事業、8・9のダム湖の富栄養化対策のため下水道や浄化槽の整備、こういうものを構成事業としています

また、この事業計画の特色は、ただ単に事業を行うだけではなく、モニタリング調査や共同調査などを行い、その結果を踏まえて、施策の効果を検証・評価し、それを県民参加で行う、そういった新しい仕組みづくりを事業の実施と同時に行っていく、ということが特色であります。本日、県民フォーラムを主催していただいた、かながわ県民会議は、この仕組みづくりとして設置したものです。

また、1～4の各事業は、県の事業として、5～9の事業は、市町村が主体となって取り組む事業となっています。

この図は、特別対策事業の実施する地域を図示したものです。先程の1の水源の森林づくり事業のエリア、これが真ん中の濃い緑の部分です。丹沢山地が中心となりますが、県はこのエリアの森林を、水源の森林の事業で整備していきます。その下側にある薄い緑色の部分がございます。こちらが5の地域水源林整備のエリアで、市町村が主体となって整備していただくエリアです。

6の河川の自然浄化対策は、この図には図示しておりませんが、相模川・酒匂川の各取水堰の上流域において市町村が管理している河川を対象としております。

7の地下水保全対策ですが、真ん中に、ポツポツと点があります。これが地下水の水源です。地下水を主な水源とする市町村の地下水対策も支援します。三浦市は、この地域に当てはまります。

最後に、8、9の生活排水対策は、黒い太枠が書いてあります、ダム湖の集水域を対象としています。

この表はこの12の特別対策事業の今年度・来年度の予算額と5年間に必要とする額を示したものです。細かくなりますので、お手元の資料を参照してください。5か年計画では、事業の目標量を定めています。例えば、水源の森林づくり事業は、38年度までに、手

入れの必要な私有林27,000haを整備することを目標とし、5年間では右端の一番上にありますように6,215haの確保を目標としています。

こういったそれぞれの目標に基づきまして、各年度の事業量ですとか予算を算出しております。昨年度の事業額は、補正予算後で、33億7390万円となりました。今年度の総事業費は42億5,924万円となっております。

事業の進み具合ですが、まず、一番上の水源の森林づくり事業ですが、5カ年の目標確保面積が右はじの6,215haとなっております。それに対しまして、昨年度の実績で、1,372haの確保を行い、今年度は、1,398haを予定しております。合計で2,770ha、約5 Km × 5 Km、逗子市、葉山町が1,700haなので約1.5倍ぐらいの面積となり、順調に行けば、2年間で目標の46%程度の進み具合になる予定です。

次の丹沢大山の保全再生対策ですが、5カ年の土砂流出防止対策の目標面積が右はじの58.5haとなっております。それに対しまして、昨年度の実績で、6.5haの対策を行い、今年度は、15haを予定しております。合計で21.5haとなり、順調に行けば、2年間で目標の37%程度の進み具合になる予定です。個々に説明する時間がないので、その他の事業につきましては、資料をご参照ください。

事業の進み具合につきましては、数字の情報だけでなく、それぞれの事業の実績を地図情報として公表していくことが必要であるとの県民会議からのご指摘を受けているところで、今年度中には、地図上でしっかりと情報提供や進行管理ができるようにしてまいりたいと考えております。

最後に本県制度の特徴のひとつとなっている施策への県民意見の反映をするための県民会議の仕組みについて説明します。県民会議の構成は、資料記載のとおりで、県民会議自らが昨年度、検討し、2つの専門委員会と3つのチームを置くこととなりました。「市民事業等審査専門委員会」では、「市民事業等への支援制度」を検討し、今年度から森林整備を行うNPOなどへの補助制度がスタートしました。「施策調査専門委員会」では、施策の進捗や事業の効果を把握するために必要な方法などを検討し、その意見に従ったモニタリング調査等を行っています。右側の「県民フォーラムチーム」は、このフォーラムの開催主体で、昨年度3回開催し、意見を集約して昨日知事に報告いただいたところです。

最後の「事業モニターチーム」は、事業が行われている現場に、委員が実際に足を運び、その状況を調査・検証するもので、「コミュニケーションチーム」と連携し、フォーラムやニュースレターなどを通じ、その結果を県民の皆様へご報告していくこととしております。

このような仕組みを通じて、事業の点検と効果的な実施に努め、県民の水源環境を保全・再生してまいりますので、このフォーラムにおいても皆様の忌憚のない意見をお願いいたします。

雑ぱくな説明で恐縮ですが、私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました（拍手）。

（高橋氏）

星崎課長、どうもありがとうございました。

続きまして、三浦半島の各自治体の水道の現状、代表いたしまして、横須賀市の上下水道局施設部浄水課上席主査、村田省平さんからご説明をお願いいたします。よろしく願います。

（横須賀市上下水道局施設部浄水課 村田上席主査）

こんばんは。横須賀市上下水道局浄水課の村田と申します。よろしく願います。今回、横須賀市の水道の現況と水源についてということでお話しさせていただくわけで

すが、ことし横須賀水道は給水開始100周年を迎えるということもありますので、まず初めに、横須賀水道発祥の地であります走水水源地の今と昔についてお話しさせていただきたいと思います。次に、その横須賀の水道の始まりであります走水水源地から100年かけて発展してきました歩みについて、給水量の推移を軸として足跡をたどっていきたいと思います。その後、今や横須賀の水道の99%以上を占めています相模川水系と酒匂川水系の状況についてご説明しまして、その後、その水源域を良好に保つために、県内の水道事業者と共同で行っておりますさまざまな取り組みについてご説明させていただきたいと思います。最後に、ちょっと局からお知らせということをお話しさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

まず最初に、走水水源地の今からお話しさせていただきます。

走水水源地ですね、今桜の開花時期に合わせまして2週間ほど水源地の中を開放しております。これはことしの3月のときの写真なんですけど、2週間で3万人程度の方においでいただきました。ありがとうございます。その次、これは管理棟の上から撮った写真なんですけど、この下、管理棟のちょうど下あたりになるんですけど、ここには横須賀水道発祥の地という碑が立っております。これはここに小さく書いてあるんですけど、ここに発祥80周年という字が書いてあります。ちょうど今から20年前につくられた碑なんですけど、この走水水源地、この碑をご覧になった方もおられるかと思うんですけど、実際の今使われている水源というのは、道路を隔てた反対側、こちらの通りを通られた方はお気づきかと思うんですけど、道路わきにこういうレンガづくりの建物がございまして。

こちら大体10メートルぐらい建物の中、下に掘られておまして、その掘られたところから左右に集水渠と呼ばれる暗渠が伸びております。ここから集められた水が管理棟の中にあります走水水源地の膜ろ過設備、これはことし2月から稼働を開始したものですけど、こちらで浄水処理をされて水道水としてつくられるということになります。

これは、このろ過設備の蓋を開けたところなんですけれども、ご家庭で使われているような浄水器と同じような作りでして、中空糸膜という細い繊維状のものが束になって中に入っております。仕様としては、1日1,000立米の水が処理できるということになっております。大体1ミリの10万分の1の粒子までここで除去することができるというような性能を持っております。こちらでつくられた水道水は、駐車場のわきにあります新しいヴェルニーの水で皆様にお飲みいただいているという形です。

これは走水水源地の今なんですけど、この次に、昔のことについてちょっとお話しさせていただきます。

これは横須賀水道発祥の地の写真で白黒なんですけど、お手元にありますパンフレットの13ページにも同じ写真が出ております。ここから横須賀水道は始まりましたという写真なんですけど、実はこの写真、先ほどご紹介した走水の水源のレンガづくりの建物と非常に似ているんですけど、よく見ると違う建物ですね。穴があいていたり、あと扉の数も違っているということで、実は違うところなんです。これ(左)は走水上部貯水池と呼ばれているところで、明治35年、今から106年前になります。これは横須賀市の市営の水道ではなくて、軍港水道としてつくられた施設になります。

今の横須賀水道のもととなるのはこちら(右)の施設でして、これが覚栄寺裏山貯水池と呼ばれているものです。これが明治41年築造ということですので、ことしの水道100周年というのはここから100年ということになります。

じゃ、この覚栄寺裏山貯水池、どこにあるのかといいますと、こちらの走水周辺の地図なんですけど、ここの部分が今の走水水源地で皆さんにお花見等でお楽しみいただいたところです。この右側に覚栄寺というのがありまして、ここがもとの水源になります。このあたりは、破崎あるいは仲町といったように、ほかの小さな水源がございまして、このあたり一帯は民家の庭先にこういう形でたくさん井戸があります。もともと非常に湧水が豊富

なところのようです。ここで覚栄寺、これが本堂の建物なんですけれども、この裏山にもとの貯水池がございます。

これが今の状態です。覚栄寺の裏山の貯水池。ここに文字が書いてあるんですが、ここに明治41年6月竣成という形で、今から100年前にこれがつくられたということがこれでわかります。先ほどの写真と比較してみますと、まさに私どもは、ここから横須賀水道の100年が始まるということが言えると思います。今、ここは、実際その中に湧水が湧き出ているようなんですけれども、実際には水道水としては使われていないという状況になっております。

次に行きます。給水量から100年の歩みを見ていきたいということです。これが100年間の日平均給水量の推移になります。ここがちょうど1908年の覚栄寺裏の水源になります。この当時、記録を見ますと、1日当たり計画水量で165立米となっています。今の給水量の1,000分の1という形になっておりまして、その後、実際の給水量の記録というのはほとんどなかったんです。ここ、初めて市外に水源を求めて、半原系統です、これが大正10年です。この時点で水量が1,200立米程度になります。次第に水量が増えていきまして、一たん記録が戦争で中断された時期を挟みまして、戦後、軍港水道の払い下げがありました。その後、このあたりですね、ちょうど高度経済成長期に当たるんですが、昭和40年を挟んでの10年間で、給水量というのは2倍以上に急激に増えています。確かその昭和47年、48年あたりで、横須賀水道史という冊子を出しているんですが、その中で当時の長野市長は、行く行くは給水量が50万立米を超えるんじゃないかというようなお話も出ていますが、実際にはこの後水量は頭打ちになりまして、徐々に増加して、今は逆にここ10数年間、水量が減り気味になっております。

これは2005年までの数字なんですけど、実際に2007年ですと、日平均給水量は18万立米台というところまで落ちているのが現状になります。ここ10数年は水量が減っているということもあるんですが、全体として見ますと、横須賀水道の歴史というのは、増えていく水量をどうやって確保していったかという歴史になるかと思えます。

そこでこの後、横須賀市の水源確保の歴史について、系統で見ていきたいと思えます。

まず最初に、明治41年から走水系統が受水されました。その後、大正10年から半原系統です。その後、戦前戦後を挟んで30年程度、県営水道を受水していた時期がありまして、戦後、1945年からは本市の有馬浄水場の系統からも受水しております。その後1964年からは横浜市との共同施設であります小雀浄水場から通水を開始しております。その後、県内の広域水道企業団というところから酒匂川系統、そして宮ヶ瀬系統という形で受水しておりまして、現在横須賀市の水源系統としては、走水、半原、有馬、小雀、酒匂川、宮ヶ瀬と、この6系統になっております。半原系統については、今休止中ということになっておりますので、実際に水を供給しているのは5系統ということになります。

じゃ、この6系統ですね、どこから持ってきているのかということについて、地図上でお示ししたいと思います。

市内ということで、市内にあるのはこの走水水源地だけになります。次に半原水源地からはるばる50数キロ市内まで水を引っ張ってきまして、こちらの逸見浄水場、逸見の山の上にありますけれども、こちらの浄水場で処理を始めております。これが半原系統ですね。その後、こちら相模大堰というところで今取水を行っているんですけれども、これは相模大堰というところなんです。こちらから水を使って、**有馬浄水場**というところで、今ですと1日5万立米程度、横須賀市内に供給しております。そのほか、一番給水量が多いのは横浜市との共同設備である小雀浄水場でして、こちらで大体、日10万立米程度水道水を横須賀に送っているということになります。一番最近の水道施設といたしましては、関連施設ですが、宮ヶ瀬ダム、こちらがございまして、こんな形で横須賀市の水道というのは、横須賀市から離れて相模川あるいは酒匂川に水源を求めているということになります。

じゃ、実際に今、相模川、酒匂川の水源地どのような形になっているのかというのをご紹介したいと思います。これは衛星画像になりますけれども、相模川、酒匂川、いずれも県境を越えまして山梨県側まで大きく集水域を持っているという状況になります。これは国土地理院の土地利用図というものなのですが、水源域、緑色のところが緑地になります。上流域に緑地がございまして、その中に幾つかダム湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖、相模湖、津久井湖といったようなダム湖があります。そこから出た水というのは市街地、あるいは青い工業用地ですね、そのほかに黄色い農地とか、あと果樹園、そういうところを流下しまして、下流域で取水しているという状況になっております。この中で、やはり水源域としてはこの緑地の部分で水源林の保全というのが重要になってきますし、あるいは上流にダム湖がありますので、そのダム湖についてはアオコ等の繁殖防止のための富栄養化防止対策というのが重要になってまいります。

これは相模湖の写真なのですが、夏場、非常に天気がいいというと、アオコが繁殖して問題になってというようなことがしばしば起こります。

そこから下流域に行きますと、市街地、工業地帯、農畜産地域に流下するわけですので、水質の監視、あるいは水質の汚濁防止、あるいは水質事故対策ということが重要になってまいります。

これは支流なのですが、油が河川に入ってきているというような通報を受けまして、職員がオイルマットを敷いてその対応をしているところです。あるいは水源域、いろんな畜産施設もございまして。これは顕微鏡画像なのですが、クリプトスポリジウムと言われているもので、人にとっては下痢症を起こしたりする原因の1つの微生物です。こういったものの検査を行ったり、あるいは農地から出てくるような農薬類を検査したりというような形で、いろんな活動を行っています。そのほか、こういう直接的な活動のほかに、水源域の公的機関あるいは農協等の河川管理の徹底、あるいは農薬の適正使用というようなことを求めたりというような活動も行っております。このような活動を通して、最終的には安全で良質な水を、安心してお客様にご利用いただくという形につながっていくのではないかとこのように考えております。

かなり駆け足になりましたけれども、走水水源地から始まった横須賀水道の歩みと、現在の水源域における水道事業体制としての取り組みについて簡単にご説明させていただきました。

最後に、ちょっとお知らせなんですけれども、先に走水水源地でヴェルニーの水ということで、市民の皆様にお飲みいただいているというお話をしましたが、そのほかにペットボトルもつくっております。こういうような売りがありますので、ぜひこちらのほうもお試しいただければというふうに思っております。

以上でお話のほうを終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました（拍手）。

（高橋氏）

どうもありがとうございました。

県のほうから、水源環境保全・再生事業についての概要についての説明、それからただいまの横須賀の水道水源についての説明がございました。皆様、これに関しまして意見、ご質問がありましたら意見書のほうにお書きになって、後で、次に行われますパネルディスカッションともあわせて、質問事項がございましたらご記入願いたいと思います。

それでは、これからパネルディスカッションに移りたいと思いますが、舞台のほうちょっと用意がございまして、少し時間をいただきたいと思います。その間にご質問、ご意見お書きになっていただければと思います。よろしく申し上げます。

（舞台準備）

(高橋氏)

それでは、これからパネルディスカッションに移りたいと思います。

ここからの進行は、県民会議委員でもある東京大学大学院工学系研究科教授、古米弘明先生、これから先生のほうにお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(コーディネーター：古米氏)

ただいまご紹介いただきました東京大学の古米と申します。

これからパネルディスカッションを始めさせていただきますけれども、まず最初に3名のパネリストの方をご紹介させていただきたいと思います。詳しい経歴であるとか活動内容のご紹介はプログラムのほうに記載しておりますので、そちらのほうをご覧くださいと思います。

皆様から向かって左側から、県民会議の委員もなされておられます里の案内人の坂本勝津雄さんです。

(パネリスト：坂本氏)

よろしくお願いいたします(拍手)。

(古米氏)

そのお隣は、桂川・相模川流域協議会幹事をされております宮野貴さんです。

(パネリスト：宮野氏)

こんにちは(拍手)。

(古米氏)

そして最後の3番目の方は、NPO法人環境ファミリー葉山理事長の安藤忠雄さんです。

(パネリスト：安藤氏)

安藤忠雄です。よろしくお願いいたします(拍手)。

(古米氏)

今回のパネルディスカッション、ここ横須賀・三浦地域で開催します。そういう意味においては、この地域に住んでおられる方も水道水を使っていますけれども、その水源が遠く離れたところにあるということから、まず最初に、水源地域はどんな状況にあるのかということをご皆さんに知っていただきたいというのが1つでございます。そして2つ目は、ここに住んでいる都市の地域の人と、上流域である水源の地域がいかに連携してしっかりと水源環境を保全していくのかと、どうすればいいんだろうかというようなことを一緒に考えていくような時間にしたいと思っております。

先ほど横須賀市上下水道局の村田さんのほうからお話がありましたように、我々は水を使っていますけれども、遠い遠いところから水はつながっていると。蛇口をひねれば水が出てくるという状況ではありますけれども、都市に住んでいる人間自身が、水源地域と都市がつながっていると。道路もつながっていますし、あるいは人のつながりもありますし、同時に水でもつながっているというようなことを改めて考えて、今、どんな問題が掲げられていて、それに対して我々どうすべきなのかということをご皆さんにぜひ考えていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

それでは、このテーマにつきまして、各パネリストの方からお話をいただくことになっ

ておりますけれども、後半は皆様からいただいたご意見だとかご質問に基づいて議論いたしますので、お手元のほうに意見だとか質問を書く紙が用意してございます。後ほどスタッフのほうで回収に参りますので、ぜひその質問用紙のほうにご質問あるいはご意見を記入いただきたいと思います。と思っております。

それでは、前振りは終わりました、早速坂本さんのほうから話題を提供いただくということで、特に水源地域でお暮らしで、実際に水源地域において活動されておられますので、そのお話についてお聞かせいただきたいと思います。それでは坂本さん、よろしく願いいたします（拍手）。

（坂本氏）

こんばんは。

先ほど、とにかく明るく楽しくこのフォーラムをやりたいという一言に非常に救われています。今日は、相模原市の津久井町というところに鳥屋というところがありまして、本当に宮ヶ瀬ダム湖畔に近いところですが、そこから駆けつけてきました。

少し時間に余裕がありましたので、前から行きたかった横須賀美術館、もうできて1年になるんですね、あそこへ行ってきました。そのときにちらっと見たのが、ああ、走水水源地、ああ、ここだったのかというところで、今の説明で何となくよくわかったなというところですが、今、津久井に住んでいるんですけども、その前は横浜に住んでいて、よく釣りに行きました。走水、午後アジとか午前アジとか、よくアジ釣りに行ったことありますし、観音崎、毘沙門、松輪、そういったところが私のホームグラウンドでした。何となく、横須賀でフォーラムがあるから、前に魚釣らせてもらった恩もあるし、ぜひ行きなさいって背中押されての気もしますが、さっき思い出したんですけども、4年前だったと思うんですが、横須賀市の水道局の皆さんが学校の先生を取りまとめて、上流域と下流域の交流事業というのがありまして、そこでフクロウのランプシェードというのをつくって、水道局のほうに秋に作品を届けにいった記憶があります。そうやって思い出ばかり増えますけれども、今日は少し山のほうの生活の暮らしとか水源地の状況の話をして進めていきたいと思っております。

今日は、手話のお2人の方、本当にご苦労さまです。私、第2回目のフォーラムの司会を橋本でやりまして、そのときに1つだけ手話を教わりました。今夜はよろしく願いますというのがその時の出だしだったんですけども、かなり専門用語が多いと思っておりますけれども、手話の皆さん頑張ってください。

はい、戻ります。意外と案内人ってこういう奉仕の精神でいきますので、ついてきてください。

まず、ここに出ましたけれども、里の案内人ということで、出ましたね。水源の里で働いているということを紹介させていただきます。

まず、その津久井のところには3人の里の案内人がいまして、お一人が安川さんという昆虫写真家で元気な方です。もう一人がブルーベリー等の農業指導をされていて、かなり農業で頑張っている宮地さんという方、そして3人目が遊び人、私で、宮ヶ瀬湖周辺での遊び人、特に陶芸活動をしております。縁がありまして県民会議の委員という役職を担当させていただいて、何か1人浮いているような気もするんですけども、なるべく現地の生の声を届けようということで、多少課長さんからお叱りの言葉なんかもいただきながら言いたいことを言っています。

その坂本は、陶芸工房「風人」をしながら、実際どういうことをしているかということでは、陶芸教室、陶器市、いろいろな体験教室を開催しています。これについてはチラシで、中にパンフレット入っていますので参考にしてください。寄せ植えとか燻製、苔玉とかいろいろやっていますね。

一方では、やっぱり身近な山は気になりますので、森林整備というところで、実際自分の生活の中ではまきストーブを使っておりまして、ほかに炭焼きやシイタケ、本当に木がないとやっていけない人間です。そしてフリーマーケットをし、今はあれですね、最近政府のほうもエコツアー推進という動きが起こっておりますので、エコツアー、いろんな旅行業者と連携をとりつつ、なるべくいろんな方に山のほうに来ていただくということで、こんな仕掛けをしております。

まず、映像で少し紹介したいなと思いますけれども、ちょっとこんな絵がありますのでおつき合ください。

これは、朝起きて雨戸をあけると目の前にある仙洞寺山です。NPOのフォレスト21という団体が、なぜか私の裏山を整備しているというのを聞くと、ちょっと胸が痛いですが頑張っしてほしいです。ちょっと雪の日きれいだったのでこんなふうに写しましたけれども、こんな景色を毎日見えています。

これまた雪ですね、ごめんなさい。ちょっと雪が降るだけで、本当水源地の津久井の鳥屋というのはこれだけ雪が積もります。切った木もかなり太いですよね。里山手つかずにいますので、切り出した木というのは本当にこんな状況です。

これが我が家のまきストーブですけれども、一番左の下を見ると2003年8月14日、なぜかストーブに火が入っています。鳥屋寒いんですよね。雨が降るとストーブたいて洗濯物を中で乾かすとか、もちろん短パンでTシャツ姿ですけれども、こんなような使い方しています。

これは好きな景色で、やっぱりまき割り大好きなんでこんなことをして遊んでいます。もう一つの引き出しで、苔玉づくりってありましたけれども、下のベースは陶器で私がつくりました。身の回りにある苔を使ってこんなふうに遊んでいます。

出ましたね、今度炭焼きということでちょっと続きますけれども、先ほど宮ヶ瀬湖畔にというところをお話ししましたけれども、これが鳥居原ふれあいの館という野菜の直売所です。中には加工品や手芸品、工芸品なども売っております。

そこから眺めたこれが宮ヶ瀬の景色、また雪ですね、すみませんね、ここからの景色が何か奥行きがあって、非常に感動的な景色で、朝方ここからもやが上がるころなんかは非常に美しいです。

山に入って木を切っているところですね。その木をこの炭焼き小屋に運んで、その炭焼き小屋の裏にミズキという木があるんですけども、何か煙でいつもいぶされているのか、何となくこんな顔の表情が出てきて、私はこれを炭焼きテグタ（スミヤキケムタ）君と呼んでいます。何か鳥屋の名物にしたいと思います。

これが焼きあがった炭で、割とソロの木とかナラの木が多いですね。炭をつくるからには質をよくしようということで、この俵を編むところからやっぱり始めようとしています。そして詰めているところですね。最近こういう景色少ないですね、車座になって人と語り合う、何かこう至福の時間という感じですね。

これは記念撮影で、小さい子たちが本当参加してくれているのが救いで、この中には、本当に気楽に炭焼きやりたいというチーム（ちゃこらー）なんていうメンバーも何か組織されまして、参加しています。

先日5月5日にふれあいで「薪割り道場」というのをやりました。103名の参加。参加者の声は、昔やったぜということと、初めてやったけれどもコツがつかめてうれしい。そういう感動の声と、意外と簡単だったなということと、すっきりした。ところでこのまきどうするのなんていう質問もありましたけれども、当然のごとく我が家のまきストーブで燃やしますということで、おいしいところどりしている坂本です。これがその映像ですけれども、女性や子供も頑張ってくれました。103人いて、この企画本当に保険に入っていない企画で大丈夫かなと思ったんですけども、やりますという申し出があったときに、

実は保険なくて自己責任だよと言うと、よしわかりましたというのが何か抑止力になったような気がします。

ほかに陶芸教室、そば打ち、布草履、野焼き、シイタケほだ木、こんなことをやっていますので、ぜひ津久井に来ていただきたいなと思います。

陶芸ですね、これはそばをこねているところです。

これは野焼きの景色で、最後攻めだきをしています。

これはシイタケの植菌をしているところです、子供と保護者の方がこうやって明るい表情で過ごされています。

これは子供が陶芸をやっているところですけれども、実はこれ私の孫です。使っちゃいました、孫です。そしてこれがお正月、山中湖のほうに行って撮った写真がこれになります。じゃ、これ終わりますので。

ここからだ時計が見えないんですけども、大体何分ぐらいしゃべりましたかね。

(古米氏)

あと、二、三分でしょうか。

(坂本氏)

ありがとうございます。じゃ、もう少し。

これじゃ、全部自分の宣伝ただけで、水源地のことを全然お話ししていませんので、今簡単にお話しします。それで大ざっぱですので、まだ聞きたいなということがありましたら、ぜひ質問用紙に書いていただいて鋭い質問をぶつけてください。

ざっと言いますけれども、水源地の状況なんですけれども、非常に実感的なお話になっちゃうのが申しわけないと思っているんですが、まず里山そのもの、非常にこれが今荒れています。なぜかという、やっぱり以前里山に入ってそれを生活のための1つのこまとして使っていた時代が、石油に押されて燃料としての価値がなくなったというところで、どんどん山から人が遠ざかったという感じがします。炭焼きこだわってやっていますけれども、もう時代遅れだよという声が多いですけれども、やっぱり昔の知恵についてはこだわっていきなりたいなと思います。それと、山を持っている方がやっぱりどんどん高齢化していくし、またそういう業者も限りがあるというところで、なかなか手つかずの状態です。

あと2つ目ですね、やっぱり杉、ヒノキを植林して、戦後かなり植えた状況があって、紅葉の時期になると本当に赤い山と緑の山が、あるいは黄色の山がはっきりとするんですけども、やっぱり自分もテラスをつくる時にどんな木を使うかという、安いツーバイフォーに走っちゃったりもするんですね。人情として非常にわかるんですけども、やっぱり外材に押されてなかなか国産の木に手が出せないという現状、これはやっぱり変えていかなきゃいけないのかなと思います。

それと現状、水源地で一番困るのは、産業廃棄物や不法投棄、いろんなごみが捨てられています。ごみだけじゃなくて命も捨てていくんですよ。その鳥居原ふれあいの館という映像ありましたけれども、本当にあそこにダンボール入りのウサギがいたり、猟が終わったばかりの犬が捨てられていたり、本当に命まで捨てていく時代になりました。年に何回か地域の大人や子供が集まってごみを回収するんですけども、本当に産業廃棄物であったりレジャー用品であったりたばこの吸い殻であったり、何かごみが集まれば集まるだけ、何か悲しい思いになるんですけども、そういう行為を通じて子供たちが、おれはしないよということをやめてくれたらうれしいなと思っていますけれども、お互い期する仲間としてそういう問題は何かこう、良心で生きていきなりたいなと思っています。

あと浄化槽の問題なんですけど、そこまで水源税の効果が少しずつあらわれていると思う

んですけれども、本当に下水道が整備されない地区なんですよね、相模原の津久井のほうは、地形的な問題もありまして。そうすると浄化槽を置くんですけれども、浸透ますというのは本当にやっかいで、すぐに吸い込みがだめになっちゃうんですよね。最終的にやっぱりU字溝につないで河川に流すという実態が生じてくるんですけれども、その中で単独浄化槽をみなし浄化槽として、どんどん合併や高度処理の形に切りかえていく、これはもう何か正論のようであり、なおかつやっぱり下水道の整備が地元として望まれるところかなと思います。

あと5つ目は、動物たちが非常に苦労しているんですよね。先日、仙洞寺山のところを歩いていると、栗林に猿が40頭いまして、何となく怖いような気もしたんですけれども、必死に、おなかすいているんでしょうね、もう既に落ちて腐っているであろう栗の木の実を食べていたんですよね。夏場にはスイカ畑に出て、親猿がスイカ2つかついでひょっひょっひょっと何か人間のよう山に帰っていく姿を見ると、何か痛々しい思いもするんですけれども、里山が崩壊して動物たちが本当に家の庭先まで出てくる時代になりました。ドングリが去年は豊富だったのでもいいんですけれども、おとしは本当我が家の庭先まで猪が来て、何か庭先の地面をほじくってしまして、鼻でほじくるもので、猪って鼻に詰まった土をふっふっと出すんですね。何だろうと思って見たら猪で何かかわいらしかったですけれども、すごく苦労している感じがします。

そんな話をしつつ、最後に言いたいことだけ2つ、すみません、言わせていただきます。今日も実感として思ったんですけれども、神奈川県ってすごく魅力的なんですよね。山があるし、海があるし、川もあるし、湖もある。すごく自慢できる場所がすごくあるだろうということで、これからもいろんな方がいろんなところへ行っていて、もちろん宮ヶ瀬のほうにも来ていただきたいなと思っています。山荒れているよと言って、やっぱりイメージとしては伝わらないと思うので、ぜひ宮ヶ瀬に来ていただいて、ああ、ダムができたね、自然が豊かだよ、いやちょっと違うんだけどねとか、いろんな話を实际したいと思います。

それから、さっき孫の写真出して、非常に私的な感じもするんですけれども、結局は命をバトンタッチしていくことが私たちの使命なんじゃないかなと思うんですよね。何かこう欲しいものを買って使っちゃっていらなくなったらぼんと捨てられちゃう便利な時代になったけれども、何か日本人って大事なものを忘れていような気がします。

ある説によると日本人はどんどん質が落ちていんじゃないかという警告の文書もあります。いや、そんなことはないよと私は言いたいと思います。なぜなら、こうやって水源環境、空気のことも含めて、そういったものにやっぱりこだわっていこうじゃないかということで、これだけ皆さんが集まってもらいました。そこからやっぱりいろんな思いが広がって、やっぱり神奈川力というか、神奈川で皆さんがどんどん活躍され、楽しい触れ合いができることを信じて終わります。

ありがとうございました（拍手）。

（古米氏）

坂本さん、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、相模川の上流部のほうで活動されておられます宮野さんのほうからお話をいただきます。特に山梨県側のほうから来ていただきましたので、上流域の川の現状だとか、あるいは問題点というものもよくご存じだと思いますので、そのあたりをお話しただけのものとおっております。

それでは準備が整ったようです。じゃ、それでは宮野さん、よろしく願いいたします。

（宮野氏）

皆さん、こんばんは。さっきこんにちはと言ってしまうと、部屋の中にとちょっと時間の感覚がわからないので、本当は皆さんも多分ご同様かと思いますが、外でいろいろな話し合いをできたらなと思っております。私もそうなんですけれども、また、次回というのがあれば外でお話ができればなと思っております。

私は山梨から参りましたので、ご存じの部分もあろうかとは思いますが、山梨県を中心に、相模川の上流は桂川というんですけれども、そちらの状況について若干説明させていただきます。

私は前のこの下のほうに書いてある桂川・相模川流域協議会という、何か聞いたことありそうなさそうな団体の1人なんですけど、これは行政、神奈川県とか市町村の行政と市民と、あと水道を使っているような事業者の方が集まって、10年ぐらい前につくった団体なんですけれども、いろいろな活動をやっておるんですけど、今日は私、できたら個人的な話ということで聞いていただければというふうに思います。

まず、全体をちょっとご覧いただきたいんですが、赤で囲んだ範囲が相模川の通常流域と呼んでいる範囲で、雨が降ればここから水が集まって河口に流れるという範囲ですが、ピンクがかかったところがあるかと思うんですが、これが相模川の水を飲んでいただいている範囲になります。ですから、こっちのほうはピンクが実はかかっていないですね。相模川といいますが、本川の水は実は飲んでいないんです、山梨県人は。神奈川県の人ほとんどといいますが、全部飲んではいらるんですけど、こういう遠く離れた三浦も横須賀も含めて、こういうふうな範囲で活用されているということでございます。

それで、上流域の状況をちょっと写真で見たいと思います。私がこれ勝手に源流部とかと言っているんですけど、源流はさっき写真もありましたが、私の写真もこれ山中湖が右側に写っているんですけども、山中湖が源流というふうに呼ばれております。そこから流れ出す川は実はこんな小さな飛び越えられそうな、昔の私なら飛び越えられたんですけども、そんな小さな川が源流でございます。

次に上流部の状態ですが、これは津久井湖ですか、その辺あたりまでが大体こういうような川になっておりまして、要は谷底といいますが、がけ下ですね、河岸段丘が相模川は発達しておりまして、その下を、どちらかという町はこの上のほうにありまして、人知れず川が流れているという形の部分が非常に多い区間でございます。

次の中流部は、もう少し河原みたいなのが出てくる区間でございます。ここはちょっと写真の箇所は結構、中流としても上のほうなのでこういうふうに大きな橋がかかっていますが、こういうところで人々が河原で少し遊んでいるような景色が徐々にふえてきております。

最下流部はこんな形で、これは相模大堰の写真だと思っておりますが、こういうふうな高度利用がなされているようなところというふうなものでございます。

山梨県側はこんな形になっておりまして、上野原市と書いてあるところが山梨県側の最下流ですけども、この隣が昔は藤野町と言っていた、今は相模原市藤野町のところです。山中湖からずっと流れてきまして、ここに住んでいる人口は20万人しかおりません。山梨県全体の4分の1しかなくて、流域全体から見ても6分の1、神奈川県全体からすれば人口規模が44分の1ということで、880万県民と聞いておりますが、その44分の1でございますので、やれることはたかが知れているのかもしれませんが、それなりに頑張ろうと思っただけ今やっているんですけど、20万人のパワーというのが限界というのがあるのかなという感じはしております。

実は、それ以外に隠れた人口というのがないと私は思っているんですけど、観光地でもございますので、富士吉田ですとか富士山ですね、河口湖、三ツ峠も含みまして、年間800万人、ここに訪れています。そのほか、山中湖に400万人、道志川の釣りとか桂川の釣りとかで130万、結構な数字なんです。住んでいる人は少ないんですけども、これだけ

の多くの人を訪れているというような事実もありまして、富栄養化という観点から見れば、こういったものも旅先でというようなことがもしかしたらあるのかもしれない。私たちも頑張りますが、旅を訪れてきた方もご注意いただけるような何か仕組みというのでも大切なのかなというふうに思っております。

これは森林の分布を色に塗り分けているんですが、色そのものの違いが私もよくわかりませんが、色が塗ってあるのが森林の部分ということで、ほとんど色が塗られております。山ばかりというところをごさしまして、流域のほとんどが森林です。この辺がどうなっているかと。先ほどの写真ありましたけれども、これ私の写真技術が下手なのでこんなふうにしかならないんですが、フラッシュをたいてもこんな感じです。それで、よしと思って写すとこういう形でごさしまして、別のところを写すともうこういうことが多いところをごさします。こうなっちゃうともうもとに戻らないわけですね。それ以外で困ったことは、松くい虫の被害が富士山の周辺にも及んでいるという事実もあります。この辺、松が立ってはおりますが、枯れているという事実をごさします。

それとごみの投棄ですね。やっぱり首都圏の圧力がこの周辺に及んでいるという事実をごさします。森の中ですと捨ててもわかりにくいということがあって、そういう捨てられた事実があります。これなんかは、言葉は悪いんですけどもかわいいほうで、こんなにいっぱいあって、中には自動車ごと捨てて、捨てるほうが大変と思うんですけども、こういうものもごさします。

あとは富栄養化の話、先ほど出ていた、色だけはきれいな写真でごさしますね。

きれいなものついでに、猿橋というのを皆さん聞いたこと、行ったことあるかもしれませんが、この辺の技術が釘を1本も使っていないということで有名と申しますか、日本三大奇橋と言っているんですけども、その下をちょっと掃除しますと、これはごみを積んだ船で、すごい河岸段丘で絶壁の下ですから、レスキューのおじさんに取ってもらうようなことをしないとなかなかとれないようなほどいっぱいごみをごさしまして、日本三奇橋も泣いているというような事実をごさします。

あとこちらのきれいな川ですね、滝になっておりまして、これは支流の鹿留川という川です。何かおかしいですね。これが何でしょうかって、これはごみなんですね。こういう景勝地にこそ、こそと申しますか、景勝地ほどこういうものがたまったりするんですね。目立つというか、目立つからいいとか目立たないからいいとかという話じゃないのかもしれませんが、こういうような事実もごさしまして、きれいなところですが非常に残念な、これは当然住んでいる私たちが出したごみでもあるわけなんですけど、先ほどの観光客の方々にも起因するものも若干あるのではないかなというふうに思っております。

それとあと、これは子供たちの貴重な写真でごさしますが、ガラスのかけらとかがあつて、子供たちちゃんとしていますね。サンダル履いているんですね。みんな川へ行くときははだしでなんかで行かない。徹底しておりまして、もう本当にごみなら捨てるけれども、ガラスのかけらなんか絶対に捨えないですね。でもすごいんです。川に入ったことがある人やあるいは今後入る方にぜひ見ていただきたいのはこの現象でごさします。大人の皆さんへということで、私も大人の一人として言われましたので、ここでもご紹介したいと思っております。

最後、まとめでごさしますが、1つは森が泣いていますよ。もう1つは川も泣いているよということを皆さんにも訴えて、それだけでは困りますので、どうかしていききたいなと思っております。特に、今日お示ししたいのは下のほうで、実はこういう図はよくご覧になったことがあると思うんですが、BOD、先ほど出てきましたけれども、下水道でやっているとBODというのは9割以上取れて、きれいになるんですが、窒素やリンというのは半分くらいしか、普通の活性汚泥法では取れないということで、今、これを一生懸命山梨なんかもやろうとしているんですが、それでは流れているところの水はどうか

なるかもしれませんが、相模湖や津久井湖の富栄養化はなかなか防げないという事実があるということでございます。

またもう一つ知っていただきたいのは、水ですから上から下へということなんだと思いがちですが、実は汚染は下流から来ているという事実でございます。さっきの窒素の循環のこれは神奈川県の方でまとめたものに私がちょっと加筆させていただいたんですが、相模湖や津久井湖に流れ込んでいるいろいろな物質循環のうちの窒素ですけども、家庭からとか都市からは3割のものが入っております。農地から3割ですね。そのほかはこういう都市の排気ガスとか工場排煙といったものを通じて、森林を通して4割来るとこういうことがございまして、上流に住んでいる人というのはこのくらいの原因をつくっているということ、あるいは農地ですから自分たちの食べるものもそうですが、売るとかそういうことに関してこういった割合、あるいはこういった私生活から来る割合というのがあるということで、上から下だけではないという事実もあるということをもっと知っていただければというふうに思います。

すみません、時間が長くて。最後の最後ですが、それを解決するために何が悪いのかなということをもっと考えてみますと、やっぱり上下流の分断、こういう物質的な物理的な分断もあるんですが、やはり社会的な県民が、特に山梨県とか神奈川県の人もそうかもしれませんが、余りお互いのことを意識せずにやっている。活動は、ここに来ている人たちは非常に意識が高いんだと思うんですけども、一般の方はそういうようなことは余り意識されていないということですね。先ほどの、20万人しかいないからなかなかいろんなことできないとかという話もありますが、下流域の影響も徐々に出てきているんだよということをもっと知っていただけたらなと思っております。それ以外の話はまだまだいろいろ本当はいろんな原因があるんだろうとは思いますが、実はその辺はまだ解明されていない事実がいっぱいあるということで、今後、今回の水源税のお金でもそういう調査というのもやられるようですけども、それを含めてデータを徐々に蓄積しながら、検証、解明をしていきたいというふうに思っております。

ということで、私の最後に言いたいことは、知ることから始めようということで、ここに来ている人たちには釈迦に説法でございますが、事実を知っていただいて、あるいは事実を自分たちの目で確かめて、今後の取り組みに目を向けていけたらというふうに思います。

ありがとうございました（拍手）。

（古米氏）

宮野さん、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、安藤さんから、葉山町を中心として、ご自身NPO法人を活動されておられますけれども、その活動について、特に水源地域とのつながりという観点からお話をいただけたと思います。地元でそういった水源のこと、あるいは川のこと、いろいろな側面から環境というキーワードでご活躍ですので、幅広くお話ししていただけたと思います。よろしく願いいたします。

（安藤氏）

ありがとうございます。

こんばんは。ただいまご紹介いただきました、葉山町から参りました安藤忠雄でございます。あの有名な安藤忠雄さんと全くの同姓同名でございます。安藤先生のほうがもうちょっとお年上でございます。

今日は、最初に星崎課長さんからお話ありましたように、上下流事業、今回のこの税金の事業の範囲以外のところからもいろんな提言をしてもらいたいということもございまし

て、葉山町、私の住んでいるところは今回の事業の対象外ですけれども、その市民として、町民としてこの水源に、水源環境保全・再生かながわということについての私なりの意見を、私の活動を含めてご紹介させていただきたいと思っております。

なお、何で葉山から来るんだということは、たまたまこういうNPO活動の中で水に関することをやっていたりということもございまして、若干の関連があったので今日ご紹介させていただきます。今日のお集まりの皆様の専門的な分野からは少しずれているかもしれませんが、ひとつご容赦いただければと思います。

私どもの団体の目的なんですけれども、ちょっと堅苦しく書いてあるんですけれども、葉山町には環境活動をしている団体たくさんいらっしゃいます。だけれども、実際この団体とか町民とか事業者さんが、みんなお互いに連携するということが少ない。私は虫が見たい、私はメダカを見たい、それを保全したい。そこの横の連携がないんですね。それを相乗効果を高めるということによって、もちろん我々も、自分たちも環境の活動をするけれども、一緒になって環境保全、環境意識の向上を図って、パートナーシップ体制を築いていくということを目指して設立いたしました。3年前になります。

主な活動のご紹介なんですけれども、これは葉山の町立の学校なんですけれども、地域活動として環境観察を支援しております。この中で、実はもう2004年から続いているんですけれども、全国水統一調査というのがございまして、全国一斉に6月の第1週にやることにしているんですけれども、中学の皆さんとも一緒に森戸川だとか下山川、2つ葉山にございますが、その川を観察をしながら勉強していくというような活動をしています。それから、町のコンポスト、町も実は3,000台の、1万1,000世帯で3,000台のコンポストを配置している、非常に高い実績を持っているんですが、これももっともっと進めたいということでアンケートに協力したり、それから本当にその生ごみ使ったら、実はトマトもおいしくなるし、何も使わないよりずっとたくさんできるよというのを、今実験しております。

それから、町内の施設を見てきたんですが、勉強したんですが、環境学習、今回のきっかけ、ここでお話をするきっかけになったのが、この事業とはちょっと違うんですが、上下流域自治体交流ということで間伐体験に行っていました。去年は12月は山北町で、ことしは葉山は、先ほどお話をされた津久井町と交流することになっております。いろんな、あとGISを用いた情報データベースをつくるとか、いろいろな何か、先ほどのこの環境の全体の仲間をつくろうという、環境カフェをつくろうというような活動も今しております。

あと、行政ともいろんな協働をしなければいけないということで、葉山町で一番大きな環境づくりのイベントなんですけど、これもこの6月1日で第14回になりますが、町と共催をする。それからアイジェス（IGES：財団法人地球環境戦略研究機関）さん、横須賀と葉山の境にありますアイジェスさんとの協働事業をやったり、県の主催のこどもエコクラブの交流プログラムに参加するというようなこともやっております。

言葉でよりもやっぱり写真のほうがわかりやすいと思いますので、これは子供たち連れて森戸川の源流へ行って水質調査をしている写真です。途中の橋の上から水を取ったりしています。これは地域のメンバーとして川の清掃に参加したところでございます。

先ほど数字が出ていましたけれども、森戸川の源流は大体CODで1から2ぐらい、非常にきれいです。鮎が棲めるんですが、残念ながらそれがずっと流れ流れて河口に来ると7とか8といった、10までは、基準が10ですから10は切っていますけれども、7、8ぐらいまで悪くなる。公共下水がまだ半分も行っておりませんし、古い単独浄化槽もあるということで、生活排水がそのまま流れ込んでいるということで、水質が、せっかく上流はいいんですけれども。

もう一つややこしいことなんですけれども、実は葉山は、普通下水の処理場って海辺に

ありますよね、下流にあるんですが、実は上流の山の中にあるんです。そこで処理した水をまた放流する。このきれいな水のところに放流するちょっと矛盾があります。あと、先ほどご案内した環境フェスタ、電気自動車乗ってもらったりそれから太陽光の力とか、それから大学生の皆さんの研究発表をしたり、紙をリサイクルするというようなこともやっております。

にわか木こりとありますけれども、昨年の12月に山北町の皆さんにお世話になって、山林の間伐体験、枝打ちを経験いたしました。これは環境課の職員さんも一緒に行きました。私がへっぴり腰でヒイヒイのを引いているんです。確かにこれ手のこでやりましたので結構大変でした。私の仲間がちょうど半分に、三角に、くさび形に切り込んでできたよと喜んでるところです。1人当たり大体2本ぐらいいは切ったんですけれども、それでも結構たくたになりました。

その後、お楽しみが待っておりまして牛なべをごちそうになりました。ミカン狩りもあるということで、もう大満足の1日でした。この日も副町長さん以下、職員の方もたくさん出ていただいて、それから町民の方も出ていただいて交流したんです。ミカン狩りも、これもミカンを、いわゆる水源地としての保水のために非常に大事な木だというふうに聞いております。

皆さんには大変お世話になって大変いい経験になりました。私どもとしては初めてのことで、こんな細い木でも切る、倒すがいかに大変か。倒すのが結構、考えているほど簡単ではなかったというのが体験できたなというのが非常に。伐採後も、結局丸太の状態にしなきゃいかんですから、ある長さに切らなきゃということで、寝かすだけじゃないなということも大変だということもわかりました。

ただ残念ながら、今回のこの事業の担い手の問題、林業の担い手の問題、特に後継者問題、それから山を切っても木を切っても経済的には成り立たないんだよという説明の苦しい話を山北町の皆さんは、実際は第1回のフォーラムのときに苦しいという話はあったと思うんですけれども、この席で我々との交流の部で説明していただければよかったと思うんですが、余り強い発言がなかったのが残念でしたねということです。

実は、神奈川県の実野率は39%、先ほど写真に出ましたね。実は葉山町は51.5%、半分以上が山なんです。民有林が875ヘクタール、ほとんどが私有林です、公有林がほとんどありません。このように人口林よりもやっぱり天然林、このような照葉樹林などという格好になっております。水源としてということでは、水道水源ではないんですけれども、この実際上の河川流域を潤う、海を養う水源としての葉山の森林の状態というのをちょっと写真で紹介いたします。

何が一番言いたかったかということ、このつる性の植物が蔓延している部分がある。葉山町の玄関である逗葉新道、横横からおりてくると逗葉新道で料金所があるんですが、この周りはもう本当に全く茶色になっていて、これ冬の写真ですけども、全く木が見えないような状態。それからご承知のとおり、多分もう横須賀あたりまでおりてきていると思うんですけども、台湾リスの被害が非常に激しい。それから、先ほど何べんもありました、水源地での風倒木も当然のことながら葉山でも起きております。

ちなみに、葉山町はじゃ、こういうことに対してどういうふうにできるんだろうか、地方自治としてですね。残念ながら里山保全事業として昨年、19年度の事業で予算が30万円、旺盛な繁殖力の葛の処置を行うということで、実はことは予算27万円、もう道具を買うだけで精一杯、ほとんど何もできていないというのが実態です。

ここからなんですが、水源環境保全・再生についての提言ということで、私なりに理解しているのは、これは林業が成立することだ。なりわいとしてですね。これにはやはり短期的ではなくて長期的な視野が必要でしょうということで、今回のことも大綱で20年の計画が必要だということはお案内のとおりですが、そのときに、森林が林業を成り立たせる

ためには、林を維持するだけじゃなくて、石油資源が枯渇することはもう見えているわけですね。地球温暖化も現実のものだということで、政策が、もう一つこれに上乘せしたらどうでしょうか。つまり、山、森が生み出す価値を高める政策により、林業が結果として成立するような誘導ができないだろうか。これを考えていただきたい。こういう提案でございます。

その1つとして、例えばなんですが、地球温暖化対策と称して、神奈川県は電気自動車を普及させるということで、15億円のインフラ、充電装置ですね、各県内にあちこちにつくろうとしています。15億円です。この数字覚えておいてください。これをバイオマスとして森林を考えましょうよと。従来、バイオマスというとトウモロコシだとか小麦だとか考えて、それからエタノールをつくったんですが、インフラ整備、最近の新しい技術では木からもできるようになるという意味で、こういうインフラ整備を行う、30億ぐらいで既に関西バイオエタノールもできました。こんなようなことで今15億、そんなような違うないことでインフラ整備ができれば、継続的なサステナブルな環境事業ができるんじゃないでしょうか。こういうのがご提案の1つです。

提案の2ですね。これも自然の恵みを永続的に受けるためには、上流から河口や海域を一体に考える必要があるということは、昔の先人の知恵として出されてきました。その意味で、山、川、海をもちろん水源としての大事なことは当然の、今回の問題としては当たり前なんですが、全体を考えて一緒に保全するということが自然の恵みを活用する政策。海から必ずまた山へ循環していくということでは言われているとおりですので、そういう意味での一体的な政策を希望いたします。

私の提案は以上でございます。ありがとうございました（拍手）。

（古米氏）

どうも安藤さん、ありがとうございました。

ここで舞台を整えますので、しばらくお待ちいただきたいと思います。この時間を使いまして、意見あるいは質問用紙を回収させていただきますので、記入がお済みの方は、周りにスタッフの方がおられますのでお渡しいただければと思います。また同時に、この時間を利用して書いていただくということも結構です。随時スタッフの方にお渡しいただければ、こちらのほうでパネルディスカッションの材料にさせていただきますと思っております。

なお、今日パネラーの方3名おられましたけれども、同時に県の施策に関するご意見だとか関連のご質問があれば、ぜひ遠慮なく質問用紙のほうにお書きいただければと思っております。

（舞台準備）

（古米氏）

それでは、舞台の準備も整いましたので、早速討論に入りたいと思います。予定では8時半までということで、若干押しておりますけれども、少しは延長できるような雰囲気を感じておりますので、大いに議論を深めていきたいと思っております。

皆さんに質問を書いていただいておりますけれども、それが集まるまでこちらのほうで議論をスタートさせていただきますと思います。

一番最初に、坂本さんから宮ヶ瀬の地域に実際に住んでいる方として、上流域の写真であるとかあるいはその生活のスタイルであるとか、あるいはエコツーリズムにつながるような、上流と下流のつながりができるようなイベントみたいなことをやっておられるというお話を聞かせていただきました。

2番目の宮野さんからは、要は我々の飲んでいる相模川の上流に位置するその山梨県側

は20万人しか住んでいない地域であること、そして、そこに流れている水は山梨県の方は飲んでおられないというようなことであるとか、あるいは我々が排出したというか、自動車排ガスのNOxみたいなものを介して上流側に窒素の負荷が来ていると。そうすると窒素あるいはリンといったような栄養塩が、相模湖であるとか津久井湖、場合によっては宮ヶ瀬の地域において富栄養化を起こして、先ほど写真で見せられたようなアオコが発生しやすい状況の一因になっているというようなことをご紹介いただいて、新しい情報を皆さんも仕入れられたのかなと思っております。

最後は、安藤さんからお話をいただきました。私、お話を聞いた中では、やはり県民の一人一人というもののパワーは非常に小さいものですが、やはりNPO法人というようなグループをつくることによって、積極的に環境保全活動に住民の方が参加する、あるいは発言するということの重要性みたいなものをご指摘いただいたと思えました。同時に森林の扱い方という面では林業が深くかかわっていて、それに向けて我々に何ができるのかなというような提言までお話しいただいたというように私は理解しております。

ということで、簡単な総括をさせていただきましたけれども、せっかくですので、パネルの方にぜひ私のほうからお聞きしたいと思っております。ちょっと順番は前後いたしますけれども、宮野さんの話の中で、まず流域全体の理解を進める必要があると。上流の方と下流側の交流が意外にできていない。要は山梨県側と神奈川県という、県境があるということもあるでしょうし、必ずしも情報がうまく伝わっていないと、そんなことをご指摘いただいて、もっと我々が知る努力をしないとイケないんじゃないかというようなことを感じたんです。そういったことを打破するというのは、先ほど坂本さんが言っているようなエコツーリズムみたいな話を使うとか、あるいはNPO法人みたいな活躍を期待する、いろいろあると思います。何か宮野さんのお考えだとか、何かアイデアがあればお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(宮野氏)

トップバッターなんですけど、なかなか答えが、はい、じゃあこうすればよしいとか、こういうことをやっていますとかという答えがずっと出れば、今日のこの会はやっぱりないというようなことが、言い逃れかもしれないかもしれませんが、あるのかなという感じがします。

私たちも少しずつですがやっていることを、今日は余り紹介できなかったんですけども、やはりいろいろな機会、テレビだとかこういうシンポジウムとか、そういう機会の上流の様子やあるいは上流の暮らしぶりというのを知る機会というのは、本当はいろんな機会があるんだろうと思うんですけども、やっぱり聞くと見るとでは随分違うというのか、実際に行くということの行為で感じるというのは、本当に五感というのか六感も含めて、ものすごく違ったものではないかなというふうに思います。ですから、先ほど坂本さんの話にありましたが、木こりみたいな体験も含めて、自分で行って、なおかつそこで住んでいる人や活動している人から直接話を聞く機会というのを、やっぱり設ける必要があるだろうなということで、私たちも年間何回かはそういう活動をやってはいるんですけど、それを少し広くというんでしょうか、直接体験に勝るものはないと思います。理想から言えば、住んでみていただくというのあるんでしょうけれども、そういうことはやっぱりできませんので、ですのでそういうことを通じて自分のことというふうに認識していただきたいなというふうに思うんですね。

(古米氏)

どうもありがとうございました。

まさに急に質問したものですから大変だったと思いますけれども、ちょうどフロアの方からいくつか質問が、坂本さんに来ていています。今まさに現地を見て、やはり現地の言

葉で聞いてみるとかあるいは実際に目で見るということの意味や意義があることが指摘されました。まさに坂本さんは水源地域に住んで暮らしておられて活動されているということでご質問が出てきております。

都市住民が志向する新しいライフスタイルというようなことで、里山で休日に楽しむような人が増えていきますかと。そして、そういった人が増えることによって水源に対する意識も変わってくるのかと。今、宮野さんが言っていたようなことが、都市のほうから出ていく人が感じているのかどうかと。最近の動向はどうですかというようなことについてお聞きしたいというのが一つ目の質問です。

あとは、そういった地域に、要は都市の人が魅力をきっと感じていると思うんですけども、それをさらにうまく見せるような工夫みたいなものは何かありますでしょうかというのが2番目の質問です。もう一つはその林業とのかかわり、先ほど安藤さんからお話がありましたけれども、そういった林業とのかかわりで、里の案内人というようなキーワードで何か考えていられることはございますでしょうか。

たくさんありますけれども、趣旨としては都市に住んでいる方々が、上流域に対してもっと訪問してみたいとか、あるいは魅力を感じるような努力をすとか、あるいはさらには林業を絡んだ形で何か構想されていることはございますかというご質問だと思います。何かご意見をいただけますでしょうか。

(坂本氏)

たくさんのご質問ありがとうございます。

何か電車に乗って帰りたくなくなってしまいましたけれども、先日の神奈川新聞に宮ヶ瀬V2全国ダム来訪者調査1位という記事が載っていました。何万人来るかというすごい数なんですよね。年間157万人に上り、というような言い方で、かなり飛躍的に宮ヶ瀬を訪れる方がふえている。これはかなり背中を押してもらっているなということと、その記事の中に、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団によると、そば打ちや陶芸教室など湖畔の体験イベントというようなくだりがあって、坂本の名前は出てこないんですが、少し縁の下の力持ちになっているという気持ちでいます。本当にいろんな人の力が欲しいというのが実感です。

まず、私まきストーブをやっているんですけども、不思議な現象がありまして、従来その土地に住んでいる人たちって今さら木を切りたくない、あの苦労は嫌だという方が多くて、この時代にやっぱりまきストーブ導入しようというのは、ありえない世界。新しく移住してきたというか、越してきたメンバーは、周りにある本当に無駄に腐っていく木を資源として使えないかという思いで山に入り、次第にネットワークをつくり、鳥屋まきストーブの会というのできるんですけども、そういった仲間が鳥居原ふれあいの館というステージがあるもので、そこを基地にいろんな方の交流企画をつくりたいなというふうに思っています。

そのヒットのコツは何かと言われたときに、私もよくわからないんですが、やっぱり自分の熱い思いと誠意というんですか、やっぱり大事なことというのは、時代が変わっても大事なことだと言い続けなきゃいけないと思うので、そこでやっぱり環境を守るためにみんなが力を合わせたらいいなと思います。今回、市民事業の中で、何か組織を応援してくれる補助金みたいな活動も何か立ち上がるようですけども、山のことにかかわる従事者が本当に数限られている現状の中で、力を合わせられる人たちが、関心がある人たちが本当に協力し合いながら山に向かっていかなきゃいけない時代です。

そこでついつい観念的なことを話しちゃうんですけども、種田山頭火という俳句詠む人が「すべてころんで山がひっそり」とか俳句詠んじゃうんですけども、本当に山の中に入ると人間ってちっぽけだと思うんですけども、それが集団になったとき本当にパワーになると思いますので、それを実感できて生きがいになるようなイベントを今後も考

えていきたいということで、ごめんなさい、長くなりました、まとめが。

(古米氏)

どうもありがとうございました。

要は、都市にいる人たちが、そういった場所に対してやっぱり魅力を感じるような機会をつくること。同時にその知る努力もするし、そのいいところばかりじゃないところも知ってもらいたいというような気もします。やはりそれが観光地だとか水源地域というのが同時に守られるためには、だれかが手を入れなくちゃいけないと、それなりに林業なり、そういった産業として成立しなくちゃいけないというようなところもあるかと思えます。ちょうど安藤さんの最後のご提言の中に、要はやっぱり水源地域あるいは森林、そういったところにはどうしても林業の経済が成り立ち得るような状況が必要で、幾つかご提言をいただきました。追加で安藤さんのお考えがあれば、特にこの神奈川県というフィールドの中で、非常に大きな人口を抱えており、なおかつ横浜だとか川崎、今日は横須賀の会場ですけれども、遠く離れたところから水源をもらっている都市域の方々に、どんな意識でそういった林業であるとか森林を守るといようなことを考えればいいのか、何か追加のお話があればお願いできますか。

(安藤氏)

先ほどご案内したように、中学生を中心に川へ連れて行って、水の水質、COD、簡単なパックテストでやるんですけども、そういう意味では非常に、ついでに一緒に、ついでと言ったら怒られるんですけども、下水処理場も行って、しょうゆ1滴を500ccのこのボトルの中に1滴入れただけでこんなに汚れてしまうんだねということも体験させています。ものすごくびっくりしますわね。こんなにCODが一週に上がってしまうということで、まずそういう意味での先ほど山北町へ呼んでいただいた、これは大変うれしいんですけども、町民だけでもせいぜい30人ぐらい参加していますね。そのお金たるや、バスも借り、職員も一緒に行き、大変なお金がかかるわけですね。

そういう意味ではやっぱり地元でも、たまたま私も葉山の場合ですけども、湧水もありますし河川もある。これを守るとい活動に、実は先ほど県の方にもお聞きしたんですが、政策大綱、この20年間の大綱の中には、このいろいろなところの地域の町の谷戸だとか、それから遊水池の保全をするというのは、一応各地方自治体に任せる格好の事業になりますよというお話だったんですが、そういう部分をもう少し一生懸命、もちろんNPOも頑張る、それを支援をしていただく行政が、支援していただくことにすればコストも、やっぱりどうしても金やコストですよ。山に行って体験するのは非常に大変なお金がかかる。それを地元の身近なところの水源を守ることが、どんなに大変なのかということを経験させるような仕組みを、僕らもつくりたいと思いますし、また行政もそれをバックアップしていただければ、子供への環境意識の改善などができるんじゃないかなと思います。

(古米氏)

ある意味、正直言ってここにおられる年齢の方よりも、もっと若い世代にこういったメッセージを伝えることも重要なのかなと思いながら今お聞きしておりました。要は、先ほど一番最初に申し上げたように、安藤さんにお聞きしたいんですけども、もちろん宮野さんも協議会という組織で活躍されているのでそうなんですが、一人一人の力って意外に小さいんですけども、NPO法人という、あるいはその仲間グループを組んでやはり大きな発言力を持つと。それが同時に県のためになっているとか、先ほど、もっとすばらしい神奈川県役に立っているという誇りというんですか、情熱という言葉になるかもわかりませんが、そういったところにつながると思うんです。NPO法人としての活

動であるとか、そういったものが今回水源と地域の中で、特に都市にはたくさんの方がおられますので、そういったNPO法人としての活動がどう貢献できるのかというようなことについて、ぜひ安藤さんと宮野さんについてちょっとお聞きしたいと思います。

(安藤氏)

NPO法人としてどんなことができるかということなんですけれども、我々非営利活動で、いわゆる事業活動をしているわけじゃないものですから、我々の場合ですね。もっと大きなNPOはたくさんあると思うんですけれども、その意味での最後の壁は資金、さっきから何度も言っていますけれども、資金になるんですけれども、私自身としては、今日一番最初にご案内したように、一つ一つの非営利団体、活動団体は力が小さいと思うんです。それで、ご案内したように、みんな活動している人たちが一緒になるテーブルをつくらうよ、みんなで協働をやるような場をつくらうよというのが、今呼びかけているところなんですけれども。そういう意味で、ほんの少しずつでも、みんなの力を合わせて活動していく。水に興味がない、おれは虫だけだとか、あれだけだということ、必ず水は、この環境を考えていくには必ず水の問題が出てきます。その意味でも水をキーワードにした連携の仕方は、私も1つのやり方ではないかなと思って、今呼びかけているところなんですけれども。

(古米氏)

どうもありがとうございます。

宮野さん、いかがでしょうか。非常に大きな相模川・桂川の流域協議会として、NPOとはちょっと違いますけれども、いろいろな団体の方がやっぱり協働するという組織を長くやっておられるので、何かご意見があらうかと思えますけれども、いかがでしょうか。

(宮野氏)

1,680平方キロという神奈川県面積より若干小さいくらいの面積の流域というものがあります。それと、あと、それは水が集まってくるという雨、洪水とかそういうような流域の面積ですが、飲んでいる人たちの住んでいる範囲を先ほどピンク色で示しましたが、それを示しますともっともっと倍くらいの広さがある流域があるんですね。そこにいる人たちの思いというのは非常に多様性といえますか、さまざまなことで、我々の団体に入っている人たちも、個人によってはもちろん違う、意識が違うんですが、地域によっても、課題も違いますし、求めているもの、解決しなきゃいけない、正常化の手段というのでも1つとして同じものがないというのが、今我々が思っている実感なんですね。

それで、流域全体でいつも同じことを同じように進めるといえるのは、これ不可能ではないかというのが1つ。今日のテーマとはちょっと違うのかもしれませんが、実際の話としてはございます。

それで、やはり地域をもう少し、流域全体よりはもう少し細かな単位でグループを、地域協議会という小さな、小さいといっても何市町村かが集まるくらいの範囲ですが、そういったようなところで何が問題でどうやっていこうか。そうすると、例えば上流側の山梨県としては、下流側の人たちとどういう付き合い方をしたらいいのかとかという具体的な話が少しく、話として展開をしやすくなるわけですね。そのときに、全体の仲介役といえますか、媒体者として、我々の組織がひとつそれになればいいなとも思っておりますし、そういう立場も当然あるのではないかなと思います。

今回の水源税でも、いろいろな活動を支援していくということもございますので、我々の会としても、あそこでこんな人たちがこんなことを頑張っているよというようなものの仲介というのでもやってみたいし、我々もそれをもっと知りたい。あるいはその下流側の人

たちがどんなことを実際面として思っていて、どのくらいだったらできるとか、参加できるのかとか、そういったことも具体的に知っていききたいなと。

それで、最後に一言なんですけど、みんな来てもらおうとか、例えば森林の伐採体験とかそういうことを企画してやっている団体は幾つもあるんですね、今は。もちろん参加されたこともあると思うんですが、ものすごく準備万端をし過ぎちゃうんですね。そんなことまでしないでいいよと言うんですけども、いやーこれが来て、こういうことやってもらいたいし、こんなこともと気配りをして、もう本当に準備に疲れちゃうというのがありますんで、行くほうが、いや、もうそんなもうふだんの姿でいいんですけど、だから私たちも一緒にやりたいんですというようなことを、もっとリクエストする必要があるのかなということを思いました。ありがとうございました。

(古米氏)

今ちょっと話題にしたNPO法人とか、あるいは県民の方々の活動というのを、ある意味上流の方々と都市の方々がいかに触れ合う機会をつくるのかということが重要で、そういう意味においては、ぜひ都市の方が水源の場に行く機会というものをつくっていくと。今回の水源税の中では、そういった県民参加の事業というものに対してしっかりとお金をつけて活動していただくと。要は市民のほうから提案して何かやると。先ほどあったような森林の伐採をやるとか、あるいは水質のモニタリングをして現状を把握するというようなことに対しても、助成制度が始まってスタートしています。

そういったときに、ただ、専門的にやっている人じゃなくて、先ほどちょうど安藤さんが言われたように、1つのグループじゃなくて幾つかのグループが、違う興味を持っているグループが集まっていくと、それが何か1つのフォーラムのようになって、そこにまた都市の人が1人、2人でも自由に参加できると。そういった情報が、横須賀の方々だとか三浦の方々にこういうものがありますよと、実は行こうと思っているんだけれども、そういった情報がないと参加しようにもできないというようなところも考え直さなくちゃいけないのかなというように、ちょっと聞いて感じております。

そういった意味で、宮野さんに1つ質問が来ておりますのでご紹介させていただきたいと思います。先ほど写真の中で不法投棄があって、イタチごっこ的な状態ですよというお話があって、実はこの会場におられる横須賀の方も同じような問題を抱えていると。それに対して何かボランティアの方がやっているような活動があるのか。あるいは何か工夫があるんでしょうかというようなことがご質問が来ていますので、もしご経験があればご紹介いただけますか。

(宮野氏)

私も、実は今こんな壇上に上らせていただいておりますが、本当に個人的なことなんですけれども、環境に興味を持ったのは、各家から1人出てごみ掃除をやるから、町内会でですね、出るよと言われてまして、おやじが出られなくて私が出たというのが中学生ころの経験でして、その活動をやったときに、田舎なものですから、がけ下には自転車はあるわけはあるわけで、何でこんなものまで捨ててあるんだろうというのを見て、あれ、もしかして自分も缶とか投げてなかったかなというふうに反省といいますが、ぐさっと来まして、それから投げなくなりましたけれども、そういったことがやっぱり何かのきっかけで、その本人にダイレクトに伝わるといえるのか、心に入ってくるような経験を積みせることが1つだろうと思うんですね。

それともう一つは、そういう機会をある程度多くの人に与えるということですから、行政のほうの取り組みというのが大変大切なのかなと。上流のほうに都留市という3万5,000人ぐらいの規模の市がありますけれども、年間、環境のそういう保全教育を600人の

方にしております。何だ、600人かと思うかもしれませんが、3万人のうちの600人ですから相当なパーセントでございます、その人たちは一生懸命地域に活動を広げていこうということで、そのそういう活動をやっているということはやっぱりごみが多いということなんですが、そういうところの積み上げというんでしょうか、継続というんですか、そういうようなことをやっていくしかないのかなということでございますので、もちろん、今ご質問の方の意見、ご質問の趣旨に答えきれてはいないと思いますが、そういう個人の体験をうまく引き出すということがされていければと思います。

(古米氏)

どうもありがとうございます。

ちょうど8時35分になろうとしておりますので、取りまとめというんですか、まとめをさせていただきたいと思います。今回のパネルディスカッションでは、横須賀・三浦地域でやるということで、まずは皆さんが飲んでおられる水は一体どこから来ていて、その地域はどんなところなのかということで、水源地域の現状で宮ヶ瀬の話、あるいはさらには山梨県側の川の話、あるいは地元の活動ということをお話いただきました。そして、十分には深められませんでしたけれども、都市の地域と水源地域がどう連携すればいいかというキーワードで進めてまいりました。

最終的には、やはり我々都市に住んでいる人間が、もっとやっぱり水源のことを気にかけて、自分が飲んでいる蛇口の水は一体どこから来ているのかなということ、1回は知っていただきたいし、それをやはり知った人は、そのお子さんであるとかお孫さんかもわかりませんし、友人の方に一言言うことなど、ちょっとしたことが少しずつその水源と、要は都市に住んでいる方々のつながりみたいなものがふやしていく。そうすることによって、じゃ、自分の飲んでいる水源ってどんな状態なのかな、じゃ、見に行こうかなというような動きもできて、そのときにやはりおもしろいイベントがあったり、あるいは森林の中の苦労みたいなものを一方で知るというようなことで、やはり共通認識を都市の側と水源の方が両方が持つ必要があるんだろうなというように感じております。

その中で、先ほど壇上に上がる前に県の施策に関わる質問ということでお話をしていたんですけれども、およそ納税者1人当たり1,000円、税金を1年間払っていると。総額で38億円とか40億円ぐらいですので、ちょうど先ほど880万人の人がいるということなので、納税者だとわかりにくいので、およそ県民1人当たり400円とかぐらいを払っておられると。そうすると、ちょうど、先ほど村田さんのお話にあったように、横須賀って40数万人おられるので、そうするとざっと計算すると2億円近くは払っていると。2億円がどこに行っているのかなということやはり非常に重要で、意識していただくことはとても大事なので、そういった観点から税の使われ方についてということで県に質問が来ております。

この場でお答えいただくというよりは、半分コメントのような内容です。要は税の導入して1年間たちましたねと。山林は悪化しているのはわかったと。どうよくなってくるのかなと。要は、目に見える形で示してほしいということで、質問というよりは、こんな感じで将来頑張してほしいというような激励の質問・コメントであります。そういう意味においては、ぜひそういった税がどういう形で使われているのかということ、県だとか県民会議は積極的に情報発信する必要がありますし、同時に、その県民あるいは住民の方々が積極的にどうなっているのかという意識を絶えず持っていただけたことが大事だと思います。県の行政側あるいはいろいろな活動をされている方、下流域に住んでいて飲み水を飲んでいる方の意識で、切磋琢磨とは言いませんけれども、お互いに新たな大きな目標に向かって進んでいくという気持ちを深められるんじゃないかと思います。

ということで、非常にまとめ方が下手でございましたけれども、時間もオーバーしましたので、これにてパネルディスカッションを終わりにさせていただきたいと思っております。

す。

フロアの方からも重要なご質問もいただきましたので、パネラーの方と合わせてしっかりと議論できたかなと思います。どうもありがとうございました（拍手）。

（高橋氏）

もっと時間がありましたら、このパネルディスカッションを重点で、もっと何かやりたいところがございますが、残念ながら時間も来ましたので、これをもってパネルディスカッションを終わりたいと思います。コーディネーター、それからパネリストの方、皆さん、もう一度拍手をお願いいたします（拍手）。

それではどうもありがとうございました。

あと、事務局的なちょっとお願いがございます。今のパネルディスカッション、それから最初のほうの報告あわせまして、ご意見、質問がございましたら、まだ少し出るまで時間ございますので、事務局の方はもう少し残られますので、今ここでまた質問、意見がございましたらお聞かせいただければと思います。それで、ここで出ました意見、質問事項というのは、県のホームページでお知らせいたします。内容を整理した上でお知らせしますし、また横須賀・三浦地区のフォーラムでこういう意見が出たということをもとめまして県民会議のほうに報告し、それを県に報告することになっております。ということで、アンケート用紙、意見にはちょっとアンケート用紙の下のほうはスペースが足りなかったような人は、意見書、それから質問状のほうに広いスペースがありますので、そちらに書いていただければと思います。

それでは、大分時間を超過しましたがけれども、本当に最後までご清聴ありがとうございました。それじゃ、これをもって今日の県民フォーラムを終わりたいと思います。ありがとうございました（拍手）。

閉会 20:40